

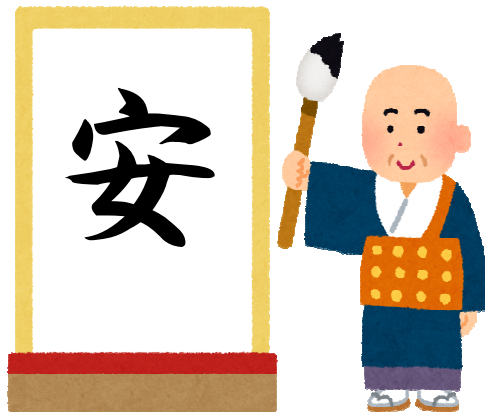
相談室だより

(2015年12月)



担当：くろさき苑 緒方英樹

2015年「今年の漢字」



「あっ！」という間に12月となり、街のイルミネーションに心ウキウキしていたら、もう！お猿さんの足音がきこえる時期となりました。今年はみなさんにとってどのような1年だったでしょうか？みなさんそれぞれにいろいろなことがあった1年だったと思います。

12月15日に発表された今年の世相を表す漢字一字は「安」という漢字でした。選出の理由は、**安**全保障法成立、テロ・ISへの**安**、マンションの建築データ偽造問題による**安**全神話の崩壊、**安**倍総理、円**安**、芸能人のとにかく明るい**安**村さんの「**安**心してください。穿いていますよ」のギャグなどの「安」という言葉そのものや連想される出来事が多かったからだそうです。ということで、今回の相談室だよりは、医療・介護・福祉の分野でもよく使われている「安」という言葉と今年の出来事の中から話をしたいと思います。

医療・介護でもよく使われる「安」

「安」という漢字は、「**安**全」「**安**心」などの言葉として、医療・介護の現場でもよく使用されます。また患者さんや、利用者の方からは「病院代・お薬代・利用料金が**安**い(?)」などとして使用されているかもしれません(多分ないとは思いますが!)。医療や介護従事者は患者様や利用者の方に安心して受診・治療・利用をしていただくために、安全には日々細心の注意を払い医療・介護活動を行っています。ところで、安心や安全という言葉はよく使いますが、医療・介護の分野には他にも「安」を使う重要な言葉があります(最近はあまり表にはでてこない言葉となっていますが)。みなさんわかりますか?.....答えは「**安**楽」の「安」です。では「安楽」とはどのようなことでしょうか。また、私は以前参加した研修で講師の方が「食事と餌の違いがわかりますか?この違いを正しく説明できないと安楽の提供はできません」と話をされました。みなさん、違いをきちんと説明できますか?(私はその時、正確に説明できませんでした)

まず、「安楽」についてですが、辞書によると「身体的・精神的に苦痛や不安がなく、満足感を得られる状態にあること」と記載されています。看護の専門書には「看護における安楽性とは、患者が単に苦痛や不安や不快がないというだけではなく、病気や障害や年齢のいかににかかわらず、人間の尊厳を維持して個別的な生活様式や生活習慣にそって、より人間らしい生活ができるということをも含めた概念である。安全性と安楽性の概念は拮抗するものではなく、安全性をより重視する技術のプロセスは安楽であるべきだし、安楽性を重視する技術のプロセスの安全が無視されると安楽性は獲得できない。」と記述してあります。少し、見えてきましたか。そうです!「安楽」であるということは『人間の尊厳を維持し、個別的な部分も含め、より人間らしい生活』をおくることなのです。そして医療・介護に携わる者は患者様や利用者の方にこの「安楽」の提供こそが重要なのです。人権の尊重、その人らしさを大事にする、この「安楽」の考え方を援助者が忘れてしまうと、食事は餌になってしまうのです。

近年、特に介護の分野では「個別性」「その人らしさ」という言葉が重要なキーワードとなっています。いま介護従事者(援助者)にはパーソナリティのみならず、疾病・障がい・ライフスタイルも含め人の個別性として捉えた上で、「生活=生き活きと生きていくこと」を支えていくことが求められています。その人が抱える困難も含めて受け入れ、寄り添い、その人らしさを支える、簡単なようで難しいことです。でも、そのような援助を目指して.....!

雑誌の記事より

先日、雑誌の『9割の日本人が知らない、いまそこにある「危機」』という特集記事を読んでいたところ、“重い”命が狙われたとしてパリのテロとしてパリのテロ事件について記述してありましたので簡単にご紹介します。

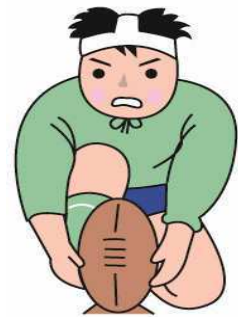
2015年11月13日、フランスの光の都とよばれてきたパリでISによるテロ事件が起こりました。この事件は130名の死者、300名以上の負傷者がでるなど凄惨なものとなりました。このパリのテロ事件はみなさんをご存知と思いますが、パリでのテロ事件の前日(11月12日)にレバノンのベイルートで43名の犠牲者がでたテロ攻撃のことは知っていますか?パリのテロ事件後、世界各国は哀悼の意を示すために有名な建築物をフランス国旗の3色でライトアップをし、フェイスブックでは安否確認サービスを提供するなどの動きがありました。しかし、ベイルートでのテロ事件は世界の市民もマスコミも無関心に近い状態となっており、詳細な報道もされませんでした。このことはフランス人の命の方がレバノン人の命より価値があると西側の人間は考えており、ISはその「考え」を標的にしてパリのテロを実行したのです・・・との内容でした。

この記事を読むまで、私自身もレバノンのベイルートで起きたテロ事件のことは知らず、パリのテロ事件、そして事件後にオペラハウスや東京タワーなどがトリコロールにライトアップされたことのみを知っていました。まさに私は記者が指摘しているように無関心の一人であったのです。そして医療・介護・福祉に携わり、命(いのち)というものについて考えさせられる機会があるにもかかわらず、記者が言う西側の価値観に私も染まっているのだと感じました。

私たちは「命は平等である」と教えられています。しかし、本当にそうなのか、それとも違うのか?その理由は?みなさんはどう思いますか。命(いのち)・平等・人権・権利などは、知っているようで知らない、学んだようで学んでいない、いつもわかっているようで、逆に忘れがちとなるもの、そんなものかもしれません。だからこそ、何なのか?を考え続けることが重要です。忙しい年末年始とは思いますが、少し考えてみませんか。

「One for All All for One」 = 「多職種協同」

2015年の話題の一つにラグビーワールドカップにおける日本代表の活躍があります。みなさんもワールドカップに熱狂し、様々なラグビー用語を聞いたのではないのでしょうか?ルーティンポーズの五郎丸歩選手の『五郎丸(ポーズ)』は流行語大賞にもノミネートされるなど、新しい、言葉も生まれました。ところでラグビーの言葉(用語)の中にはとても素晴らしい言葉(精神)がいくつかあります。例えば「ノーサード」という試合終了を意味する言葉や「One for All All for One」という言葉です。この「One for All All for One」の意味は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳され、チームワークの大切さ、組織と個人の発展を目指す言葉として使われています。チーム医療(介護)・連携・多職種協同という言葉が医療・介護の分野で日常的に使われ、実際に取り組みが行われていますが、患者さん・利用者さん・家族、各専門職種(スタッフ)や関係者が専門性や役割を発揮しながら**スクラム**を組み、人の生活を支えていくという作業はまさに「One for All All for One」だと思います。各個人がベストのパフォーマンスを発揮できるように努力し、かつみんなが協力し、助け合うことによりチームのレベルアップを目指すという考え方(精神)、素晴らしいですね。



余談ですが、元全日本監督の平尾誠二氏によれば、本当は「One for All All for One」の最後の『One』は「一人」を意味するのではなく、本当の訳は「勝利」を意味し、全体の訳は「一人はみんなのために、みんなは勝利のために」となるそうです。やっぱり、素晴らしいですね。日本では年末年始の時期はラグビー中継が多くあり、隣市にある荒尾高校ラグビー部は今年も全国大会出場しています。観戦してみてもいいかもしれません。



今年もお世話になりました。
来年もどうぞよろしく願いいたします。

